

(5) 4 歳児

4 歳児 活動事例 1

みんなで宝島探検に行こう (6 月)

観点 (生活)

視点 (健康 へげんきいっぱい 運動)

【遊びの経過】

戸外や遊戯室等で思いきり体を動かして遊ぶようになってきた。友達と一緒に、いろいろな用具を使った遊びを楽しむ姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

友達と一緒に、フープを使ったいろいろな動きのある遊びを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★様々な大きさや色のフープを遊戯室の床に置いておく。

○フープを使って自由に遊び始める。(電車ごっこ、ケンケンパ、フープ回し、フープ転がし など)

★宝島の物語が描いてある絵を準備し、活動の場面にに応じて提示する。

○宝島へ向かって「二人で船こぎ」をする。

うまくこげない。どうしたらいいかな。

【葛藤】【思考】

ひっぱりすぎたら、手が離れちゃう。

【力の加減】



ぼくからひっぱるね。

【動きの工夫】

じゃあ、そっちに倒れるよ。

それ、ぎっちりこ。【動きの工夫】

○宝島に向かう途中で「魚釣り」をする。



フープを離さないようにしっかり持つよ。

【動きの工夫】

重たいけど、がんばって運ぶぞ。

【チャレンジ】

運ばれる時は、手を上にあげたほうがいいかな。

【動きの工夫】

○「ケンケンパの橋」を渡り、宝島へ行く。

どうしたらうまくできるかな。

【試行錯誤】



ケンケンパができたよ。

【達成感】

○活動の振り返りをする。

■フープを使ったいろいろな動きを楽しめるように、宝島探検を提案する。

■いろいろな動きにつながるように、友達の様子を紹介したり、動きを見合う場面を設けたりする。

■子どもの遊びの様子を見守り、息を合わせたり、力を加減したりすることができるよう言葉かけをし、考えながら遊んでいる姿を認める。

■体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるよう、必要に合わせて個に応じた援助をする。

■子どもたちの自信につながるため、繰り返し遊ぶなかで、何度も挑戦する姿を認めていく。

■次回の活動への意欲につなげるために、子どもたちの楽しかった思いやがんばったところに共感する。

【評価】

・いろいろな体の動かし方や力の加減を考えながら、友達と一緒にフープを使った運動遊びを楽しんでいる。

4 歳児 活動事例 2

みんなで池を作ろう (7月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 一緒にやろうよ)

【遊びの経過】

友達のまねをしたり、譲り合ったりして遊ぶなかで、思いを伝え、かかわり合う姿が見られるようになってきた。友達と一緒に砂場に水をためて池に見立てる遊びが広がり始め、みんなで池を作ろうということになった。

【ねらい】

自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりして、一緒に池を作って遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★スコップ、とい、バケツ、ナイロン袋、シートなどを子どもたちが自由に使えるようにしておく。
- ★たらいに水をくんでおく。

○友達と一緒に穴を掘り始める。

大きな穴にしよう。
【意欲】

それ、いいね。
【共感】



〇〇くん、そっちを掘って。
【提案】

わかった。
【協力】

- 友達と一緒に活動するきっかけとなるよう、子どもの言葉や友達とやりとりをしている様子をまわりの子どもに広げる。
- 子どもたちが意欲的に活動できるように保育者も遊びに入り、一緒に考えたり、道具や用具の使い方のヒントを与えたりする。

○友達と遊ぶなかで役割をつくる。

どんどん水を入れようよ。
【意欲】
【共通の目的】



水を流すよ。
【提案】

ぼくが水をくむね。
【協力】

もっと掘りたいのに。ちょっと待って。
【葛藤】【折り合い】【人とのかかわり】

- 友達と一緒に遊ぶ楽しさや協力する大切さが感じられるよう、思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりして遊ぶ姿を認めていく。
- 相手の思いを受け入れたり、折り合いをつけたりして遊べるように見守り、必要な時は保育者が仲立ちをする。

○みんなで水をためようとする。

シートを敷いたら、たまるかも。
【提案】

じゃあ、みんなでやってみよう。
【共通の目的】



水がたまってきたよ。
【満足感】

やったあ。明日もみんなでしようね。
【喜び】
【期待感】

- 子どもの気付きを認めるとともに、必要に応じてアドバイスしたり手伝ったりする。
- みんなで一緒に作った喜びが感じられるように、嬉しい気持ちや満足した気持ちに共感する。
- 明日も遊べるように、作った池をそのままにしておくことを伝え、遊びが続けられる場を保障する。

【評価】

- ・自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れようとしながら、一緒に池を作って楽しく遊んでいる。

4歳児 活動事例3

どろんこで遊ぼう（8月）

観点（興味・関心） 視点（探究心 ～どうしてかな～）

【遊びの経過】

体が汚れる遊びをする子どもが少なかったが、スコップで大きな穴を掘って水を入れると、子どもたちは中に入り泥んこ遊びを楽しんだ。おもしろい、楽しいという思いから、泥んこ遊びをもっと楽しくするよう、友達と考えたり工夫したりするようになってきた。

【ねらい】

砂、水、泥に触れて、自分なりに考えたり試したりして工夫して遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★スコップ、とい、ペットボトル、土管、バケツ、ナイロン袋など、十分な数を準備する。
- ★砂場を掘り起こし、たらいに水をくんで置いておく。

○穴を掘り、水をためて中に入る。
○水がもれないようにする方法を考える。

大変。
水がもれる。
【切実感】



おふろだ。
冷たくて気持ちいいよ。
【満足感】

いいこと考えた。
はしっこを砂で止めてみよう。
【発見】【思考】

すごい。
もれなくなった。
よかった。
【驚き】【満足感】

- ★自分たちの考えを十分に試せる時間と場を保障する。

○穴にもっと水をためる方法を考えたり試したりする。

といをつないで
水を入れよう。
【思考】【工夫】



といが動かないように
両端を砂で止めよう。
【工夫】【試行錯誤】

といのつなぎ目から
水がもれる。どうにかしたい。
【意欲】【切実感】

といのつなぎ目に
土管を置いたらどうか。
【思考】【探究心】

○水を穴の方に流す方法を考えたり試したりする。

なんで、水が流れて
いかないのかな。
【疑問】



片方を高くしたらいいんだね。
水がいっぱいたまるよ。
【驚き】【発見】



やった。穴のほうに流れた。
【充実感】【満足感】

- 楽しい、もっとおもしろくしたいという気持ちが膨らむように、子どもたちが楽しんでる気持ちに共感する。
- 子どもの驚きや発見を受け止めることで、自分なりの考えや工夫を生かして遊べるようにする。

- 子どもの思いや願いに共感するとともに、友達と一緒に考え工夫することができるよう、友達につないでいく。
- 子どもたちが進んで考えようとする意欲、自分なりに試行錯誤しようとする態度を尊重し、保育者も子どもと共に考える姿勢で、一緒に活動する。
- 子どもたちの興味・関心や疑問、知りたい、やりたいという気持ちにそって、保育者がモデルとなって動いたり、アイディアを示したりする。

【評価】

・砂、水、泥に進んでかかわり、自分なりに考えて試したり、友達や保育者のアイディアを取り入れたりして工夫しながら遊んでいる。

4歳児 活動事例4

大きななかぶごっこをしよう（2月）

観点（興味・関心） 視点（表現 へつたえたいな しりたいなへ）

【遊びの経過】

発表会を経験したことで、友達と一緒に楽器遊びやダンス、劇遊びを楽しみ、表現することに意欲的になってきた。絵本「大きななかぶ」の読み聞かせをきっかけに、大きななかぶを作るなど遊びが発展し、「大きななかぶごっこ」が始まった。

【ねらい】

お話や役のイメージを豊かにし、友達と一緒に劇遊びを楽しむ。

○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助

★「大きななかぶ」の絵本や曲のCDを子どもたちのよく見えるところに置き、自由に使えるようにしておく。

○曲に合わせて踊ったり、身振りやせりふをつけて遊んだりして、お話や役のイメージを膨らませる。




踊るのって楽しいね。
【意欲】
【興味・関心】

♪大きななかぶはぬけました♪
【楽しさ】

やったあ。ぬけたね。うれしいな。【表現】

- お話のイメージを膨らませながら活動できるよう、ストーリーを振り返ったり曲を聞いたりする。
- 保育者も一緒に踊ったり、身振りをつけたりすることで、楽しさを共有し、表現活動への意欲を高める。

○役ごとに集まり、踊りや身振り、せりふなどを相談する。



こんなふうに動こうよ。
【提案】

こんな言い方をしたら、どうかな。
【イメージの表現】

いいね。そうしよう。
【イメージの共有】

しゃがんでつなひきみたいにひっぽろうよ。
【イメージの共有】

- 一人一人の意見や考えが大切にされるように相談の様子を見守りながら、必要に応じて助言をする。
- 友達とイメージを共有しながら楽しんで表現できるよう、互いの表現を見合いながら進めるような言葉かけをする。

○みんなで「大きななかぶ」の劇遊びをする。



おもしろいね。
【興味・関心】

楽しかったね。またやりたいな。
【満足感】
【楽しさ】

本当のおじいさんみたいだったね。ネズミの踊りがかわいかったな。【認め合い】

- 劇遊びで表現する楽しさを味わうことができるよう、発表する場を設け、表現を認める言葉かけをする。
- 子どもの思いを引き出し、感想を伝え合うことで、自分たちで遊びを進めた満足感を味わい、次の活動への期待感がもてるようにする。

【評価】

・お話や役のイメージを膨らませて動作やせりふを考え、役になりきって友達と一緒に劇遊びをしている。